東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（3ヶ月以上1年未満）

2018年　05月 28日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年（プログラム開始時）:	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	イリノイ大学 アーバナ・シャンペーン校

卒業・修了後の就職（希望）先:

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界:　金融　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

米国イリノイ州アーバナおよびシャンペーンに本部を置くアメリカ合衆国の州立大学。2015年のUS Newsランキングにおいて、全米大学総数およそ4000校中41位、州立大学中11位にランキングされており、イリノイ州のみならずアメリカ合衆国中西部を代表する大学の1つとなっている。また、世界大学ランキングでは1000以上の大学の中から25位にランクインしている。中でも工学、コンピューターサイエンス、図書館情報学、会計学、心理学などにおいて全米屈指のレベルを誇る。

留学した動機

1. グローバルに経営をするための基礎となる教養、経済や経営の知識の習得
2. グローバルな環境でリーダーシップを取れる能力の強化
3. Corn Wet Milling の研究

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017	年	学部3	年生の	S2	学期まで履修		
②留学中の学籍:	留学							
③留学期間等:	2017	年	8	月～	2018	年	5	月
	学部3	年時に出発						
④留学後の授業履修:	2018	年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始		
⑤就職活動の時期:	2018	年	学部4	年生の	5	月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				44	単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				21	単位		
	留学後の取得（予定）単位				15	単位		
⑦入学・卒業／修了（予定）時期:	2015	年	4	月入学	2019	年	3	月卒業／修了
⑧本学入学から卒業／修了までの期間:			4	年	0	ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

全学交換留学が一年間出来て、かつ4年間で卒業できる唯一のタイミングであったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

1. 推薦状を書いていただけるような先生を見つけ、自分を理解してもらうために十分な関係を構築しておくこと。
2. 現地入りする前になるべく早く履修登録を済ませること。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

ビザの種類：J1
申請先：アメリカ大使館
手続き：1.5ヶ月
アドバイス：時期によっては混み合い、面接の枠を取るのも大変なので早めに準備を進める事。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

イリノイ大学の指定する規定の中で追加で必要な予防接種を受けた。大学内でも受けられるし、海外渡航を専門にした予防接種を行うクリニックもあるので、必要に応じて使うと良い（その際、イリノイ側に提出するフォームを埋めてもらうこと）。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

東京大学の指定する付帯海学に加入した。しかし、追加でイリノイ大学内の保険にも加入する事となり追加でコストがかかってしまった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

経済学部ゼミの分割申請を行った。S2までの授業の履修・テストに関しての支障は全くなかった。
また、四年間での卒業を検討する場合教務課の規定上卒論は提出できないため、もともと卒論提出義務のないゼミに所属している。経済学部で留学に行く前には3S2までになるべく多く必修の履修を進めておくことをオススメする。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

IELTSスコア(7.5 out of 9.0)の取得

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

単語力の強化をしておくと良い（特に自分の専攻分野）

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（授業を履修した場合）
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの（又は行う予定のもの）に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
ACE335 Finan Decision Indiv Sm Bus	3	●	ABE397 Independent Study	1	●
ACE444 Finan Serv & Invest Plan	3	●	ACE335 Food Marketing and Behavior	3	●
AGED260 Intro to Leadership Studies	3		ACE360 Spreadsheet Models & Applic	2	●
STAT400 Statistics and Probability Ⅰ	4	●	ECON302 Inter Microecomics Theory	3	●
MUS261 Illini Women	1		ECON303 Inter Macroeconomics Theory	3	●

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

クラスによってスタイルが異なるので自分に合った授業形式を見つける事が大事。
個人としてはレポート・事前のリーディング課題などに配分の重きを置かれているクラスよりも、復習＞予習かつアサイメント・宿題で確実に点数を積み重ねていく形式を多めに履修しました。
印象に残っている授業はFinan Serv & Invest Planで、実際のcapital market状況をtrackして毎週の値動きをニュースから読み解き、議論するのが非常に楽しく、ファイナンスが実社会と結びついて行く瞬間を垣間見ることが出来ました。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間（授業時間・授業以外の学習時間）など

Fall 13credit, Spring 14creditを履修した。
授業を午前中に固めていたので、平日の午後、授業終了後は殆どを勉強に費やしていた。1日の平均勉強時間は8-9h、その他にコーラス活動・就職活動などを並行して行なっていた。

④学習・研究面でのアドバイス

私はFallに大変な科目を詰め込み、Springに比較的簡単な授業を履修した。Fallは環境にも慣れない上、語学面でもまだ未熟なところがある為、Springに発展的な科目を取るのも良いだろう。一方で、Springは段々中だるみしやすくなるのでFallに敢えて厳しいクラスを先に取るのもありだと思う。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

Finance専攻にも関わらず基本的な専門用語を覚えていなかった為(stock: 株、bond: 債券 etc.)、最初の1ヶ月程とても苦労した。自分の学びたい分野が明確化できている人は留学前に基本的な英単語を覚えて行くと導入がスムーズだろう。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

Allen Hall (Double Room)→Barton Hall (Single Room)
Undergraduate用の寮に住んでいた。Allenは1年生が主に住む寮で、交流イベント・音楽活動などが活発に行われている。Barton Hallは1-4年生幅広く住んでおり、Ikenberry Dining Hall(食堂)・ARC(ジム)が近く立地が良い。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

・冬の期間が長く(11-4月）かつとても寒い。私の留学した年が特に冬期間が長かったようなので年にも依るようだ。
・大学近辺は基本的に安全である。ただし、持ち物の管理に気をつける事・危ないところに一人で行かない事は徹底的に注意した方が良い。
・一年間自転車をレンタルしていたが、キャンパス内は徒歩・バス移動が基本である。バスは無料で、キャンパス内だけでなくダウンタウンなどに行く事も出来る。
・留学中現金を使う機会はほぼ無く、クレジットカードさえあれば問題ない。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

全ての症状に対応できるように薬は一通り持参した方が良い。

④留学に要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

・毎月の生活費とその内訳

寮費(including 10 meals per week): 10万円/ヶ月
外食代: 2万円程

・留学に要した費用総額とその内訳

寮費: 100万円（食費含む）
娯楽費: 15万円
生活用品: 3万円
教科書： 0円(全てスライドまたは板書）
航空費：0円 (マイレージ）

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

東京大学海外派遣奨学事業海外留学奨学金(長島雅則奨学基金)より月8万円×10ヶ月を頂いていました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

Illini Women (女性コーラス)に参加。9月初めに行われるQuad Dayにて自分の興味のあるものにSign Upをすると情報が送られてくる。面接やAuditionがあるものもある為、どうしても入りたいものがある人はQuad Dayで質問をして情報収集をしておくと良い。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

UGL(図書館)内にレポート等文章の構成チェック・アドバイスを行ってくれるWriting Centerがある。ただ、細かいチェックは期待できない為、ネイティブの友達を作ってお願いするのが一番良い。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館はUGL, Grainger Libraryを主に使用。ジムはAllen Hallの隣とIkenberryの近くにARCがある。
食堂はIkenberryが種類豊富かつ営業時間も長いが、Meal Planは高い上にクオリティも高くない為、途中からDropしている人が多かった印象である(Graduate用のDormitoryに住めばDropが可能)。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

私は4年間での卒業を予定していたため、4年の6月までになるべく就職活動を終える必要があり、その為留学中も割と就職活動に力を入れていた。
メリット:イリノイでの学び(チームワーク・実践的な学び)が評価された事/英語でのインタビューに特に困らなかった事。
デメリット:テストセンターでの受験が出来ない為に応募を諦めなければならない会社が有った事(交渉次第)。電話面接が基本だが、時差ゆえに真夜中に面接が設定されることもあり、精神的負担が大きかった事(特にボストンキャリアフォーラム前の10,11月頃)

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

途中で志望分野が変わりました(コンサル→金融)。イリノイでの授業を通してFinanceの持つ実社会内での実用性の高さを体感できた事が大きかったです。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

・11月開催のBCFに参加する場合は、Webテスト・就活(ケース)対策本などは事前に買って持参する。スーツ・履歴書(写真)も忘れないように。
・可能であれば、留学前の8月にサマーインターンに参加すると良い。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:　　)
	3. 公的機関(機関名:　　)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:　　)
✓	5. 民間企業(企業名又は業界:金融)
	6. 起業(分野:　　)
	7. その他(　　)

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず単純に大学に入ってから一番勉強したな、と思います。別に東京大学で学業をおざなりにしていた訳では無いのですが、とにかく膨大な宿題とほぼ毎週やってくるMidterm/Finalの波に圧倒されながら、日々必死に勉強していました。イリノイ大学は本当に何も無いので、そうしたやりたい勉学・研究に打ち込むには最適な場所だと思います。膨大なタスクの中で優先順位をつけ時間管理を適切に行うことで、最大の結果を残す(GPA3.8 out of 4.0)という姿勢が身についたのは大きな自信になりました。
また勉学だけでは嫌という理由で何と無く入ったコーラス部は、精神的なバランスを取るのに良い役割をしてくれたし、現地学生との交流も深まったので、留学をこれからする学生にも何か自分の関心のある団体に属する事をオススメしたい。

②留学後の予定

4年生のS2より復学をし、2019年3月(4年間)に卒業予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

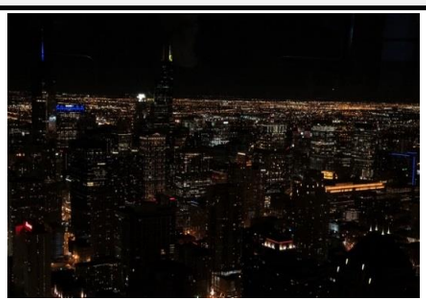
4年間での卒業を考える場合、勿論就活においてデメリットは存在します。しかし、それすらも意外と交渉と熱意次第で何とかなったりもしますし、留学を通してそれだけのタフさが身につくと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

小山八郎記念奨学制度(奨学生レポート)
私たちの代はリレー方式のブログを執筆をしていたのでもし良ければご参照下さい(→"イリノイ大学留学記"で検索)

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（3ヶ月以上1年未満）

2018年　6月　6日

東京大学での所属学部・研究科等：	法学部	学年（プログラム開始時）：	学部4
参加プログラム：	全学交換留学	派遣先大学：	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

卒業・修了後の就職（希望）先：

✓	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員	✓	4. 非営利団体
	5. 民間企業（業界：　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

アメリカ中西部にあるイリノイ州で最大の州立大学で、シカゴから車で数時間離れた静かな町にあり、勉強に適した環境。工学、中でもコンピューターサイエンスでは全米有数の有名校である。中国やインド出身の学生を中心に留学生の数も非常に多く、リベラルで交換留学生として過ごしやすい雰囲気だと思う。

留学した動機

多様性やマイノリティの問題に主に政治学・社会学的観点から関心を持っており、今まさにそうした問題が顕在化している米国の大学で学びたいと考えたため。また、生活環境が大きく異なる場所で1年間を過ごし、バックグラウンドが多様な様々な人と関わって視野を広げたいと考えたため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況：	2017	年	学部4	年生の	S2	学期まで履修		
②留学中の学籍：	留学							
③留学期間等：	2017	年	8	月～	2018	年	5	月
	学部4	年時に出発						
④留学後の授業履修：	2018	年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始		
⑤就職活動の時期：	2018	年	学部4	年生の	7	月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数：	留学前の取得単位				70	単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				6	単位		
	留学後の取得（予定）単位				14	単位		
⑦入学・卒業／修了（予定）時期：	2014	年	4	月入学	2019	年	3	月卒業／修了
⑧本学入学から卒業／修了までの期間：			5	年	0	ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由：

3年夏からの留学を検討したこともあったが、学問的な関心が定まっていなかったため、一度は学部での留学はしないことに決めた。しかし、⑴上記のように関心が固まってきてそれをアメリカで学びたいと思ったこと、⑵3年夏から留学した同期を見送って漠然と羨ましさを感じたこと、⑶民間企業の就活はしないと決めたためスケジュール的にも大丈夫だったこと、等が重なり、4年夏からの留学を決めた。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

基本的に指示が明確なので困ることはないと思う。ただし、メールによる問い合わせへの返事は遅いので、細かい疑問は過去にイリノイに留学した人々に聞くのが良い。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

米国大使館に書類を提出してから発給まで少し時間がかかる（具体的な日数は忘れました）ので早めに。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

着いてすぐ健康診断がある。予防接種は現地大学の医療機関で受けた。日本で受けるのと比べて高額だったという認識はないので、日本で受け忘れても大丈夫ではあると思う。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

国際交流課が紹介する付帯海学が加入必須だったので加入していた。付帯海学があれば現地大学の保険（原則加入）から脱退する条件を満たしていると思うが、書類の翻訳等の作業が煩わしかったので自分はそれを試さなかった。試してみる価値はあると思う。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

法学部は、帰国が履修訂正期間に間に合わなければ、過去に履修した科目のみ試験を受けることができる規則だった。単位互換については僕もこれから手続きするところなので不明。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

特別なことはしていなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

アジア系のスーパーがあるので食べ物は意外と揃う。冬はとても寒いが、防寒着も現地で購入できる。基本的に何でも手に入ると思ってよいと思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（授業を履修した場合）
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの（又は行う予定のもの）に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
PS 358　Comparative Political Behavior	3		PS 456　Democracy and Identity	3	
PS 371　Classical Political Theory	3		SOC 380　Social Research Methods	3	
SOC 225　Race and Ethnicity	3		SOC 396　Topics in Sociology	3	
PSYC 496　Adv Current Topics in Psych	3		SOC 471　Collective Action & Revolution	3	

CMN 101　Public Speaking	3		PSYC 308　Psychology of Religion and Spirituality	3	

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

自分の関心について、日本では学べない内容を学べてとても充実していた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間（授業時間・授業以外の学習時間）など

1学期15単位（授業時間が約15時間）履修していた。科目にもよるが、1時間の授業につき1-3時間程度かけて準備（主にreading）していたように思う。学期末はペーパーを書くのに時間をかけた。

④学習・研究面でのアドバイス

オフィス・アワーを積極的に利用して先生に自分を知ってもらえると、何かと良いことが多い。自分は、授業の内容、進路、履修、留学生活全般に関すること等、ざっくばらんに相談できる先生がいたことで、留学生活がより意義深くなったと感じている。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

僕は利用しなかったが、現地にもいくつか無料の英会話教室があった。大学公式のWriters Workshopというところでwritingに関してアドバイスをもらえるため、ペーパー作成時等に何度か利用し、そのうち何度かは良いアドバイスをもらえた。英語を話す機会をつくるため、定期的に集まる機会があるサークル的なものに入るのは良いと思う。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

交換留学生は大学の寮に入らなくてはいけなかった。1人部屋、複数人部屋は選べる。食堂のミールプランを買わなくてはいけない学部生用の寮と、買わなくてもよい大学院生用の寮がある。ルームメイトやミールプランを理由に途中で部屋を移る人も多かった。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

夏は乾燥していて比較的過ごしやすいが、冬はありえないほど寒い。寮を含め大学構内を移動する際は無料のバスを使う。シカゴまではバスや電車で数時間。お金に関しては、自分は日本から持ってきたクレジットカードとデビットカードを使っていたが、現地の口座をつくっている人もいた。現地の口座がないとアカウントが作れないwebサービス等が時々あるが、なくても生活に困ることはない。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

生活圏で出会うのは基本的に大学関係者ばかりなので、個人的には治安の心配はほとんどなかった。とはいっても警戒は必要だと思うが。

④留学に要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

・毎月の生活費とその内訳

・留学に要した費用総額とその内訳

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSOから月8万円を受給していた。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

Black Chorusという、African American 文化の歌を歌うコーラスグループに入っていた。
活動自体の楽しさはもちろんですが、定期的に会う友達ができるという意味でもとても有意義だった。
長期休暇は3度あり、アメリカ国内数都市とメキシコを旅行した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

到着後に留学生向けのオリエンテーションをしてくれる。自分はほとんど利用しなかったが、何か不安なことがあれば、留学関係の部局のオフィスやカウンセリングセンター等の施設に相談に行ける。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

全て充実している。（食堂は好みが分かれるので試してみてください。）

留学と就職活動について

①（就職活動を既に行った場合）留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

該当せず

②（今後就職活動を行う場合）留学が就職に対する考え方に与えた影響

留学先の1年間で自信がついたこと、周囲の進路が東大より多様だったことから、自分の興味をベースにしてより広い選択肢を検討するようになった。留学前は卒業後官庁で働きたいと思っていたが、今はそれに加えて日米の大学院進学やNGO等への就職も考えている。

③留学中の就職活動への対策など（もしあれば）

特になし

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職（法曹・医師・会計士等）（職名：　　）
	3. 公的機関（機関名：　　）
	4. 非営利団体（団体名又は分野：　　）
	5. 民間企業（企業名又は業界：　　）
	6. 起業（分野：　　）

7. その他（　　）

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

関心分野を共有している仲間ができて、将来の選択肢が自分の中で広がりました。また、自分のこれまでの経歴を知らない人たちに評価してもらえたことで自信がつきました。

②留学後の予定

進路について悩みながら、勉強を続けます。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

「準備が大変」とよく言いますが、作業の量が多いわけではなく、期日の管理が面倒だったという印象です。だから、事務的な準備にあまり気を取られず、留学中にしたいことに思いを馳せ、その計画をすることに時間を割くと良いと思います。また、留学先だから留学生っぽいことをしなくちゃいけないという訳でもないので、あまりそうしたイメージに縛られず好きなことを好きなようにやるのが良いと感じました。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（3ヶ月以上1年未満）

2018年　12月　7日

東京大学での所属学部・研究科等：	教養学部	学年（プログラム開始時）：	学部3
参加プログラム：	全学交換留学	派遣先大学：	イリノイ大学アーバナシャンペーン校

卒業・修了後の就職（希望）先：

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界：IT　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

Established：1867
Academic staff：2,548
Administrative staff：7,801
Students：45,813
Undergraduates：31,859
Postgraduates：12,979
Location：Urbana and Champaign, Illinois, U.S.
Campus：Urban 6,370 acres (2,578 ha)

留学した動機

英語力の向上、留学したという肩書きの獲得、外国人の友達を作ることなどです。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況：	2017	年	学部3	年生の	S1	学期まで履修		
②留学中の学籍：	留学							
③留学期間等：	2017	年	8	月～	2018	年	5	月
	学部3	年時に出発						
④留学後の授業履修：	2018	年	学部4	年生の	S2	学期から履修開始		
⑤就職活動の時期：	2018	年	学部4	年生の	6	月頃に	行った	
⑥本学での単位数：	留学前の取得単位				34	単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				4	単位		
	留学後の取得（予定）単位				38	単位		
⑦入学・卒業／修了（予定）時期：	2015	年	4	月入学	2020	年	9	月卒業／修了
⑧本学入学から卒業／修了までの期間：			5	年	6	ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由：								

進学選択が終わった後かつ4年生になるより前が良かったからです。1年間留学したかったので、この時期がちょうどいいと思いました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

早めに手続きを進めることが大切です。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

同じく、早めに手続きを進めることが大切です。友人たちと情報を共有し合いながらやると良いでしょう。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

予防接種を打ってから留学に行くことを要求されますが、不足がある場合は留学先のキャンパス内の保健センターで打つように促されます。不足があると、授業の履修登録ができなくなることがあります。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

付帯海学に申し込みました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

留学許可願いを出しました。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

PEAKの学科に所属していたので、英語で授業を受けることには慣れていました。エクセルに単語帳を作ってわからない単語を蓄積していました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

餅など、日本の食べ物で欲しいものがあったら、現地で買うと高いので、持参するといいと思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（授業を履修した場合）
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの（又は行う予定のもの）に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Advanced Chinese1	5	●	Advanced Chinese2	5	
International Economics	3		Guitar2	2	

Data Analysis for Communication Studies	3				
Sexual Communications	3				
Guitar1	2				

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

オンラインの教材を使うものも多かったです。クイズをオンラインで受けたり、スピーチを録音してアップしたり、楽しかったです。予習は文章（教科書や論文）を読んでくるのが基本のスタイルです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間（授業時間・授業以外の学習時間）など

12単位くらいでした。天気も寒く、ほかにも色々な状況から、勉強にやる気が出ないことも多かったです。授業以外の自分の勉強に時間を割くことも多かったです。

④学習・研究面でのアドバイス

興味のある人は、スポーツや音楽などの授業を履修してみると楽しいと思います。勉強が大変なときもあるかもしれませんが、思いつめすぎずやるといいと思います。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

会話で聞き取れないことはたくさんありました。なるべく話したり聞いたりする機会、友達を作る機会は作ろうと努力しました。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

イリノイ出身の屈強な男子２人とトリプルルームの寮に住んでいました。ルームメイトとはよく喋りましたが、寮内の他の部屋とは交流は少なかったです。寮の登録をするときにあらかじめ友達とルームメイトなるように申請することもできます。私の寮の多くの人は編入生で、交換留学生も一定数いました。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

天気は寒く、10月から4月まで雪が降り、大変な思いをしました。1学期目は週12回のミールプランに加入していたので、食堂で1日に約2回ビュッフェを食べていました。学内は食事処も多く、ミールプランをやめた2学期目はレストランに行くか、スーパーで買ったヨーグルトやチーズやベーグルを食べていました。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

夜はバー周辺や学内の路上に騒ぐ学生がいたりします。学内でも危ない人もいるかもしれないので、油断せず気をつけましょう。

④留学に要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

・毎月の生活費とその内訳

寮費が月に900ドルくらい。教科書代は0。食費は1日10数ドル。

・留学に要した費用総額とその内訳

シカゴに旅行に行った時は、2日で200ドルくらいかかりました。ニューオーリンズに旅行に行った時は、10日で800ドル（宿泊400ドル、食費200ドル、飛行機が200ドル）くらいかかりました。サンノゼとヨセミテに旅行に行った時は、10日で500ドル（宿泊50ドル、食費200ドル、飛行機が200ドル、イベント参加・交通費50ドル）くらいかかりました。したがって、旅費が合計で1500ドルです。寮費は合計10000ドル、学費は東大に収める5000ドル、途中帰国の飛行機代3000ドル、最初と最後の飛行機が合計で2000ドル。全部合わせる21500ドルくらいです。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

東大から1ヶ月につき8万円で、10ヶ月分。交換留学なので自動的に申請していただけました。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

ギターの授業で知り合った友人とは一緒に音楽室に遊びに行ったりしました。あとは中国人留学生が中国語を教えてくれるサービスがあったので登録して、週1回会って色々勉強しました。寮の隣にあったジムに行くこともありました。休暇中は国内で旅行に行きました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

到着時に留学生向けのバスを空港まで出してくれています。予約が必要です。留学生向けのイベントも開かれています。メールで配信されてきます。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

図書館はいっぱいあり、充実していました。PCはいろんな建物にあり、便利でした。

留学と就職活動について

①（就職活動を既に行った場合）留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②（今後就職活動を行う場合）留学が就職に対する考え方に与えた影響

特にないです。

③留学中の就職活動への対策など（もしあれば）

ないです。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職（法曹・医師・会計士等）（職名：　　）
	3. 公的機関（機関名：　　）
	4. 非営利団体（団体名又は分野：　　）
	5. 民間企業（企業名又は業界：　　）
	6. 起業（分野：　　）
	7. その他（　　）

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

異文化体験や語学の成長を目指していました。留学を通じて、それらは達成できたし、タフになれました。

②留学後の予定

ゆっくり就活を始める。学校でしかできないことを色々こなす。いろんな人と話す。いろんな機会に参加する。などです。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学に行った後は、思ったほど華やかなものではなかったなあと感じました。でも、友達はたくさんできたし、そのおかげで世界が広がりました。語学力もある程度上昇しました。今までずっと東京に住んできたので、違った環境に身をおきたいと考えていたのでよかったです。もし、興味があるなら留学してみることはおすすめです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

USTEPの過去の体験記

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（3ヶ月以上1年未満）

2018年　7月　11日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年（プログラム開始時）:	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

卒業・修了後の就職（希望）先:

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界: 未定　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

イリノイ州に3つあるイリノイ大学のキャンパスのうち、シカゴから車で南に3時間行ったアーバナ・シャンペーンにあるキャンパス。コンピューター・サイエンスが最も有名で、他にもビジネスや心理学部のプログラムが充実しています。

留学した動機

小学生の頃アメリカに住んでいた経験があるので、在学中にもう一度アメリカに行きたいと思い、アメリカの大学への留学を志望しました。東大と交換留学の提携をしているアメリカの大学で希望校すべてに応募したところ、合格したのがイリノイ大学でした。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017	年	学部3	年生の	S2	学期まで履修		
②留学中の学籍:	留学							
③留学期間等:	2017	年	8	月～	2018	年	5	月
	学部3	年時に出発						
④留学後の授業履修:	2018	年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始		
⑤就職活動の時期:	2018	年	学部3	年生の	7	月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				36	単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				24	単位		
	留学後の取得（予定）単位				20	単位		
⑦入学・卒業／修了（予定）時期:	2015	年	4	月入学	2020	年	3	月卒業／修了
⑧本学入学から卒業／修了までの期間:			5	年	0	ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

進学振り分けや就職活動などのタイミングを色々と考えた結果

留学の準備

①留学先大学への入学手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

書類が届き次第すぐに手続きをすること

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

書類が届き次第すぐに手続きをすること

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

英語の書類が書ける医者の方に診てもらいましょう

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

大学の保険に加え、OSSMAにも加入

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

ゼミの単位の分割・単位の換算

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

TOEFL iBTで103点

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

英語を最大限まで強化すること

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（授業を履修した場合）
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの（又は行う予定のもの）に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
ECON302	3	●	ACE360	2	●
ECON303	3	●	ACE476	3	●
MACS320	3	●	ACE444	3	●
ADV305	3	●	STAT400	4	●

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

理論を教えるばかりでなくそれがビジネスの場でどう役立つか、実践的なことを教えてくれる授業が多い印象があります。特にACEの授業はその傾向があるので、おススメです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間（授業時間・授業以外の学習時間）など

1学期の授業時間の最低時間数が12hoursだったので、12hoursだけ履修しそれに集中するようにしていました。勉強するときは、大学の図書館にひたすら籠っていました。

④学習・研究面でのアドバイス

教授やTAはいつでも丁寧に対応してくれるので、Office hourを積極的に活用しましょう。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

ネイティブの言い回しや、訛りに慣れるまでが大変だった。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

友人の勧めでSherman Hallという寮に住んでいました。シングルルームで、バスルームだけはスイートメイトと共有でした。友人の中にはルームメイトとうまくいかずSherman Hallに引っ越してくる人が多かったので、よほどルームメイトとの生活に憧れていなければ最初からSherman Hallに住むのが良いでしょう。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

冬は想像を絶する寒さなので、防寒対策は徹底しましょう。生活はキャンパスタウン内でほぼ完結します。食堂のMeal Planはすぐに飽きが来るので、自炊や外食するのが良いでしょう。お金のやりとりはほとんどクレジットカードなので、現金を持ち歩く必要はないでしょう。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

真夜中に出歩くなどしなければ、トラブルに巻き込まれることは無いでしょう。大学の病院は対応してくれる時間が限られるので、風邪をひいたときの薬などは予め用意しておきましょう。寒い時期は外出が億劫になり運動や他人とのコミュニケーションが減りますが、意識的に外出し運動や会話をすることがおススメです。

④留学に要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

・毎月の生活費とその内訳

具体的な費用は記憶にありません

・留学に要した費用総額とその内訳

具体的な費用は記憶にありません

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

東京大学支給の奨学金

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

秋学期はボウリングサークルに所属、長期休暇にはニューヨーク・カリフォルニア・シカゴ・ロンドンに旅行しました。金曜の夜にはバーに通い、友人と飲みながらビリヤードやダーツに明け暮れていました。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

特にサポートはありませんでした。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

図書館はいくつかあり、全て自習するには最適の環境となっています。ジムは2つあり、規模も大きいので運動しやすいです。食堂はいくつかありますが、あまり出てくる食事は美味しくありません。

留学と就職活動について

①（就職活動を既に行った場合）留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②（今後就職活動を行う場合）留学が就職に対する考え方に与えた影響

英語を使える職種に就きたいと考えるようになりました

③留学中の就職活動への対策など（もしあれば）

ボストンキャリアフォーラムに行きましたが、学年を1つ落とす場合内定が出ないと聞いていたので、面接は受けず説明会にいくつか参加していました。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職（法曹・医師・会計士等）（職名：　　）
	3. 公的機関（機関名：　　）
	4. 非営利団体（団体名又は分野：　　）
	5. 民間企業（企業名又は業界：　　）
	6. 起業（分野：　　）
	7. その他（　　）

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

一番は英語力が向上したことですが、その他にも新しい環境への適応力や、生活力を向上することができました。

②留学後の予定

民間企業に就職する予定です。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学前に、留学を通して自分が何を身につけたいか、どういう人物になりたいかを具体的にイメージすることで、モチベーションを維持し続け充実した留学生活を送ることができます。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特に無かったので、これからイリノイ大学に留学する学生の方が、現地での生活を身近に感じられるように、日本人留学生でブログを書いていました。
タイトルは「イリノイ大学留学記」です。良かったら読んでみてください。
http://ryugakuki.hatenablog.com/

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学　海外留学・国際交流プログラム報告書（3ヶ月以上1年未満）

2018年　5月　26日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年（プログラム開始時）:	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校

卒業・修了後の就職（希望）先:

	1. 研究職		2. 専門職（医師・法曹・会計士等
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業（業界:　　）		6. 起業
	7. その他（　　）		

派遣先大学の概要

イリノイ州シャンペーン市、アーバナ市にまたがる州立大学。中西部を代表する大学の一つ。

留学した動機

農業経済および国際開発について学習するため。海外の研究環境に関心があったため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017	年	学部3	年生の	S2	学期まで履修		
②留学中の学籍:	留学							
③留学期間等:	2017	年	8	月～	2018	年	5	月
	学部3	年時に出発						
④留学後の授業履修:	2018	年	学部3	年生の	S2	学期から履修開始		
⑤就職活動の時期:	2018	年	学部3	年生の	8	月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				42	単位		
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				9	単位		
	留学後の取得（予定）単位				29	単位		
⑦入学・卒業／修了（予定）時期:	2015	年	4	月入学	2020	年	3	月卒業／修了
⑧本学入学から卒業／修了までの期間:			5	年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

就職活動を始める前に留学したかったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）

提出書類が多いため、早い段階で必要な書類が何かを全て確認し、時間のかかるものから準備を始めるのが良い。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）

直前に他国への短期留学でパスポートが手元に必要であったためビザ申請スケジュールをあらかじめ計画し、余裕をもって申請した。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、常備薬、予防接種等）

要求されていた予防接種を済ませた。歯科検診も行った。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）

東大・イリノイ大それぞれの指定保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科（教育部）で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）

事前にゼミの単位分割申請を行った。単位認定制度について確認した。

⑥語学関係の準備（出発前の語学レベル・語学学習等）

直前に短期留学をしていたため、英語を使った授業が準備にもなった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

特になし。ほとんどの日用品は現地で購入可能であるため、現地で調達し帰国前に処分すると良い。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト（授業を履修した場合）
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの（又は行う予定のもの）に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Poverty in a global context	3	●	Economics of US rural poverty & development	3	
Agriculture in international development	3	●	Development	3	
Poverty interventions and evaluations	3	●			
Intensive elementary spanish	4				
World food economy	3				

②留学中の学習・研究の概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等）

農業経済・国際開発を中心に学習した。履修した授業では少人数ディスカッション形式が多かった

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間（授業時間・授業以外の学習時間）など

秋学期は4授業13単位時間分、春学期には6授業14単位時間分履修した。

④学習・研究面でのアドバイス

授業で課されるリーディングやアサインメントをこなすのはもちろんだが、それだけでは物足りない可能性があるのでRecommendedの文献等も読んだりオフィスアワーに教授やTAと議論をしたりするとより充実した学習が行える。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

どういった力を伸ばすべきかは教員に確認すると良いと思う。意外と語学力以外が突破口となって授業参加がしやすくなるということもある。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）

大学寮に滞在。大学からの案内に沿って手続きを進めた。部屋の変更は後でも可能。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）

基本的に2学期間を通して寒い時期の方が多い。11月頃から寒くなると4月頃まで寒さが続く（今年は4月中旬にも雪が降った）。食事の選択肢はそれほど多くないが、キャンパス周辺やダウンタウン、寮併設の食堂で食事をとることが可能。お金は渡航時にキャッシュで数百ドル持参したほかはクレジットカードで済ませ、送金はしなかった。カードは2種類以上持っておくといざという時良い。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）

大学のある街は比較的治安が良いが油断は禁物。イリノイ大学の保険に加入した場合、大学の保険センターに風邪や熱であれば無料でかかれる。

④留学に要した費用について（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）

・毎月の生活費とその内訳

食費（食堂）・寮費 1000ドル、外食代　300ドル、衣類・教科書・雑費　200ドル

・留学に要した費用総額とその内訳

月1500ドル、旅行4000-5000ドル、飛行機代2000ドル、計20000ドル程度

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

The Fung Scholarshipsより受給。月額8万円。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など）

バドミントンサークルに所属した。休暇中はボランティア活動を行った他、普段の週末はオーケストラやバレエのパフォーマンスを月１～２回の頻度で鑑賞した。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

どれも充実していた。一定の授業を履修すると修了が認定されるプログラムに申し込んだためそのプログラムのアドバイザーとは定期的に面談を行った（特に留学生限定ではない）。留学生に限らないが、エッセイの添削をおこなってくれるサービスがあり、課題の提出前には利用した。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

どれも充実していた。

留学と就職活動について

①（就職活動を既に行った場合）留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②（今後就職活動を行う場合）留学が就職に対する考え方に与えた影響

大学卒業後に就職するか大学院に進学するか、留学前に悩んでいたが、留学を終えて就職をすることを決断した。

③留学中の就職活動への対策など（もしあれば）

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職（法曹・医師・会計士等）（職名：　　）
	3. 公的機関（機関名：　　）
	4. 非営利団体（団体名又は分野：　　）
	5. 民間企業（企業名又は業界：　　）
	6. 起業（分野：　　）
	7. その他（　　）

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

将来的に海外で働くことも視野に入れているため、アメリカ人のものの見方や考え方の片鱗が見られたのは有意義であった。大学卒業後のキャリアについてより幅広い・長期的な視点で考えられるようになったことも成果の一つであると思う。志望動機にも繋がるが、日本ではそれほど強くない国際開発の分野を勉強できたのも重要な意義の一つである。

②留学後の予定

当面の間は大学での学習に並行して就職活動を行う。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少しでも留学を考えている人は留学すべきです。留学することのメリットとデメリットを考えた場合、留学中の過ごし方次第で、留学後にはメリットがデメリットを大きく上回る（と思える）状況を作ることが可能です。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

GoGlobalの過去の留学生のレポート、小山八郎奨学金ウェブサイト

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。